

科学者委員会学術誌問題検討分科会（第9回）議事録

日 時： 平成22年3月9日（火）17:00～19:30
場 所： 日本学術会議 5-A（1）会議室
出席者： 浅島委員長，玉尾幹事，北島委員，山本（正）委員，
谷藤委員，永井委員，林委員，尾城委員
事務局： 竹林局長，古西参事官，山中参事官補佐，兼平専門職，鳥生専門職，
中島調査員 他

配布資料：

資料1 前回議事要旨（案）

資料2-1 提言案（第4次案）[西郷幹事まとめ]

資料2-2 提言案（第5次案）[玉尾幹事まとめ]

参考1 委員名簿

参考2 提言案（第3次案）（第8回分科会資料2）

参考3 学術誌問題の論点について（第1回分科会資料4）

参考4 「学術誌問題検討分科会」

－これまでの検討状況と提言の骨子－（総会資料）－

参考5 山本眞鳥副委員長からのメール

議事

1. 前回議事要旨（案）の確認

2. 玉尾幹事より、資料2-2（第5次案）に基づいて説明

第3次案（参考2）、第4次案（資料2-1）に比べて、国民の知る権利の保障（4.3）、科学者の責務（4.5）等の記述の充実を図った。オープンアクセスについては山本眞鳥副委員長の意見（参考5）との調整が今後必要。

浅島委員長から、米国でも学術誌の質に対する科学者の責務の重要性が指摘されているとの説明。

続いて、尾城委員より第5次案の2. 学術誌を巡る現状・動向および3. 学術誌のあるべき姿についてオーバービューがなされた。研究機関による外国雑誌の受入れは、紙媒体は激減しているが、電子ジャーナルについては、パッケージ購読の拡大と円高の後押しもあってむしろ各機関で読める雑誌数は増大しているとの説明がなされた。また谷藤委員より、大きい研究機関では図書費の削減を他の裁量的経費で補填しているケースもあり、表面的な統計では実態が読めない可能性が指摘された。

3. 浅島委員長より、これまでの議論を受けてぜひ提言をまとめ上げたいが、第5次案の5.1 提言の骨子にある1) から5) までと8) は適切な提言と考えられるのに対して、6) と7) については再検討の余地があることが指摘された。

6) に述べられているオープンアクセスをどこまで強い表現で提唱するか、科学技術基本計画第3期計画に謳われている公的研究経費による成果のアーカイブ化以上のものが打ち出せるか、について様々に議論された。結論として、6) については提言から削除することになった。

7) あるいは他の項目には NII など、学術会議以外の機関の活動方針に影響を及ぼす提言が述べられている。また資料2-2 (第5次案) の末尾にある参考資料のロードマップ案2では NII の将来にわたる活動方針を提起する形になっている。これらを学術会議の提言に組み込むためには相手機関との合意が前提となる。本提言が4月の総会で承認事項ではなく経過報告の形になるにしても、関係する機関の承諾を得ておくことは必須であり、浅島委員長を中心に早急に対応することとした。

4. 以上の議論を踏まえて玉尾幹事が最終提言案を作成する。

以上